

書くこと③

自分の考えが効果的に伝わるように、理由を明確にして根拠を挙げて書くこと

つまずきの実態

～こんな児童の姿が見られますか？～

自分の主張に沿った理由とその理由につながる根拠が書けない。

自分の主張に沿った理由は述べているが、その理由「人の勝手な行動で命を奪われるのはおかしいことへの根拠ではなく、自分の思いを述べている。」

私、犬の殺処分は反対です。それは、人の勝手な行動で命を奪われるのはおかしいと思うからです。例えば、私の家の犬はともかわいいのに、殺されるなんてかわいそうです。

理由

実践の概要

単元名

自分の投書を新聞に投稿しよう

『新聞の投書を読み比べよう』東京書籍

目標 自分の主張が伝わるように、理由を明確にして根拠を挙げて投書を書く。

- 内容
- 理由とその根拠を明確にして自分の主張を投書するという単元の見通しをもつ。
 - 自分の主張に沿った理由とその根拠の挙げ方、書き方など読み手を説得するための工夫を学ぶ。
 - 主張を明確にし、理由とその根拠を挙げて投書を書く。
 - 投書を交流し、新聞社へ送り、単元を振り返る。

学習内容の系統と各学年に見られるつまずき

学習内容（単元名）		つまずきの実態
第6学年	自分の投書を新聞に投稿しよう	自分の主張に沿った理由とその理由につながる根拠が書けない。
第5学年	「和の魅力リーフレット」を作ろう	目的に応じた小見出しを作り、その内容を説明する文章を自分の考えと区別して適切な資料を入れながら書けない。
第4学年	広告大賞を目指して、夢の〇〇商品の広告を作ろう	2つの文章を読み取り、それぞれの意図や目的による違いが挙げられない。
第3学年	理由がわかるように書こう	自分の考えたこととその理由を整理し、順序立てて書くことができない。
第2学年	絵を見てお話を作ろう	場面がつながるように、伝えたい事柄を決められない。
第1学年	のりものかるたをつくろう	調べたことから、学習のめあて(役目・つくり・できることを意識して書く)に則した伝えたい内容が決められない。

単元末の目指す姿

- 自分の主張に適した理由や根拠になっているか確認しながら文章を書くようになる。
- 理由と根拠のつながりを意識し、適切な接続詞を使って自分の投書を書くことができるようになる。

つまずき解消に向けた指導の工夫 ①

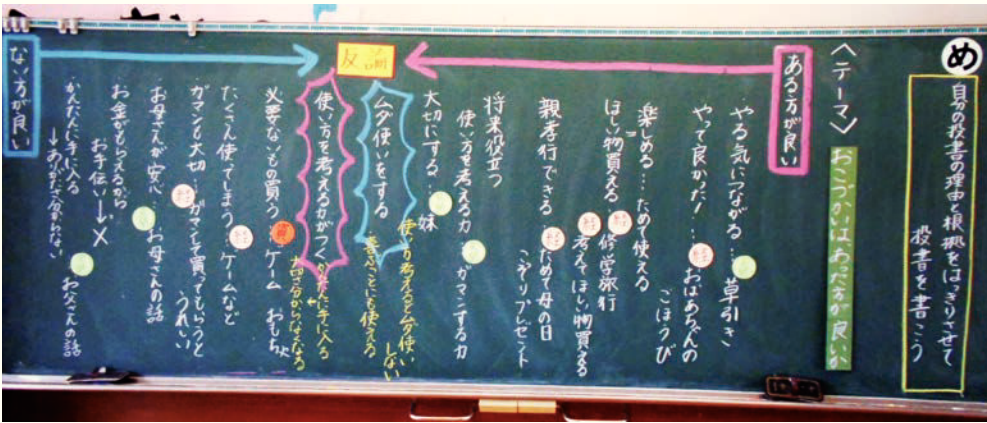
主張に対する理由とその根拠の示し方についての意見のつながりがわかるように板書で整理する。

活動のねらい ▶ 自分の主張に沿った理由とその根拠を明確にすることができる。

ここがポイント

それぞれの主張の理由となる考えに説得力をもたせる根拠がわかるよう、挙げた根拠の具体例（経験・見聞・資料・言葉）を理由と共に板書で整理し、理由と根拠の違いを視覚的に認識しながら、2つをつなげてとらえられるようにする。

授業の様子



(期待される児童の姿)

主張に対する様々な理由と根拠を聞くことで、自分の主張に沿った理由と根拠のつながりについて、再考できるようにになる。

つまずき解消に向けた指導の工夫 ②

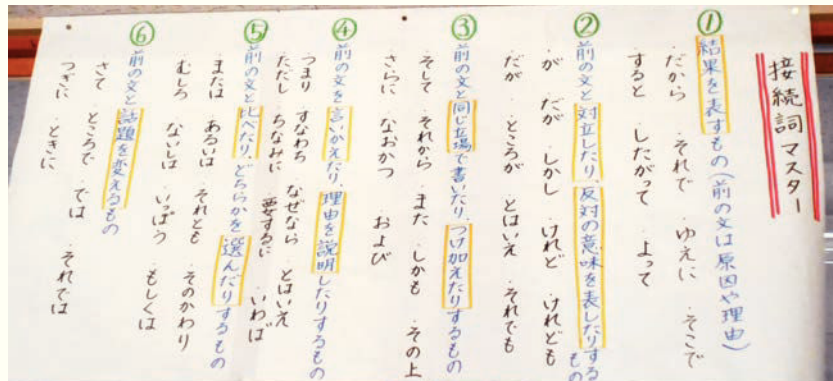
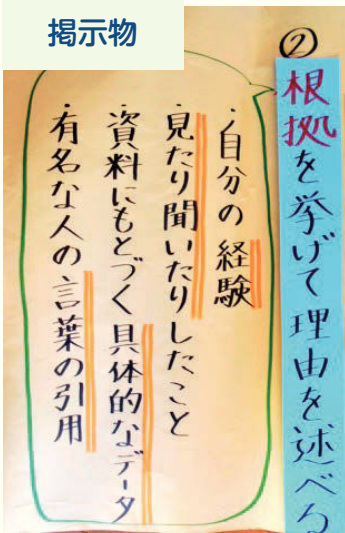
根拠として挙げられる内容の例、理由や根拠を書く際の接続詞等を提示し、活用させる。

活動のねらい ▶ 理由と根拠のつながり、文と文のつながりなどを意識して書くことができる。

ここがポイント

根拠の例（経験、見聞、資料、引用文）や原因及び理由を示すときの接続詞（「だから」「したがって」）等を示し、児童が投書を書く時や読み返す際に、どの根拠を使えば自分の主張に沿った理由と根拠になるのか、どの接続詞を使えば文と文がつながり、読み手を説得できるのか考えられるようにする。

掲示物



(期待される児童の姿)

提示された根拠の例等を参考にすることで、理由と根拠のつながりや読み手を説得する述べ方を意識して投書を書くことができるようになる。